

## 公立大学法人公立諏訪東京理科大学中期目標（案）に対する意見要旨

### 【第1回諏訪広域公立大学事務組合公立大学法人評価委員会（9月7日開催）での意見】

- ・全体的に良いものになっていると思うが、今の大学運営とあまり異なるところが出てくると色々な問題が出てくると思うので、現在と照らし合わせながら作成していければよいと思う。
- ・助教の任期制やテニユアトラック制について記載があるが、もし、こういった制度にこれから取り組むということになるととても大変だと思う。また、助教は任期制やテニユアトラック制度を行うが、なぜ教授や准教授は行わないのかといった問題も出てくると思う。この辺りは、勤めている方にとってはシビアな問題になってくると思う。
- ・「工学系統の新たな分野への展開」とあるので、もし伸びる方向があるならば是非とも取り組んで行ってほしいと思う。
- ・「シーズ発掘を目指すイノベーション型研究と、地元企業のニーズに応える実用化研究をバランス良く実施する。」とあるが、工学部というからには順番が逆ではないかと思う。工学部ということ重視すると、「企業のニーズに応える実用化研究とシーズ発掘を目指すイノベーション型研究をバランスよく実施する。」となると思う。かつて、「産業は学問の道場である。」といった方がいたが、とても工学部的な考え方であると思う。工学部という感じを出すのであれば、ここは順番を入れ替えた方がいいかもしれないと思う。
- ・競争的資金について、外から資金を取ってきたときに、これをどのように配分するかしっかり考えてほしいと思う。例えば、科学研究費を獲得すると3割ぐらい間接経費がくるが、それをどのようにしていくかを明確にするとよいと思う。そういった経費については、是非、大学へ戻したり、研究者にも若干戻したりしてもらい、やりがいのある研究環境を構築しておいてほしいと思う。
- ・「常に大学の変革を意識した運営を行う」とあるが、日本人は現状優先になりがちだが、精神として、こういう意識が大切であると思う。
- ・人事評価について、「公平公正な人事評価を実施して、人材の処遇・配置に繋げる」ということは、非常に重要であると思う。
- ・中期目標については良くできていて、このことがうまくできれば大変良い学校になると思う。一番重要である、教育をどうしていくかということが明確になっていることと、研究や地域貢献ということがしっかり謳われているのでとても良いと思う。

- ・中期目標を達成するための具体的なことについては、これから中期計画が作られ、それには数値目標や達成すべき目標が出てくると思うが、そういった事に対して、我々がまた評価していくのだろうと思う。肝心なことはこの目標を受けて、中期計画をどのように具体的に作成していくかということで決まってくると思う。
- ・グローバル化が進む中で、グローバル人材の育成ということをしかりと謳っており、この学校で出来ること、それから海外へ行くことなど、色々な取組をしていくということが記載されているので、大変良いと思う。
- ・具体的な数値が出てこないとなかなか評価するのは難しいが、中期計画もこれからできてきて、それに対してもこれから意見を言う機会があると思うので、この中期目標を達成していくために中期計画をしかり作っていただきたいと思う。
- ・公立大学を作ることが目的ではないので、この公立諏訪東京理科大学で教育を受けた人材が地域に根差した人材になるように、しかりと考えていただければ良いと思う。
- ・「働きやすい環境を整備する」とあり、こういった部分は最近の情勢を捉えて記載しており大変良いと思う。それから「男女共同参画」について、中期目標の前半で積極的な女子学生の入学促進ということが記載されていて、学生だけでなく女性教員に関することや、子育てに関する事などがあると思うので、このあたりも計画の中で具体的に書き込んでいただければと思う。
- ・目次の表現を統一した方が良い。（「～の目標」という表現があったり、「～の改善」という表現が混在している。）

## 【第17回諏訪東京理科大学公立化等検討協議会（9月22日開催）での意見】

- ・大学には、大きく分けて「教育」「研究」「地域貢献」「国際」の4本の柱があるが、今回提示された中期目標(案)では、項目立てとして「研究」という柱立てが無くなっている。また、中期目標の基本目標にも大きな柱の1つである「研究」を入れるべきである。
- ・公立大学においては地域貢献も大事であるが、その前にしっかりとした研究を行っていないと地域貢献ができない。地域貢献の中に研究を入れてしまうのは少し行き過ぎであるように思う。やはり、大学としてしっかりと研究を行っていき、研究についてもしっかりと世界に誇れる大学にしていくということを出していくことが大事である。
- ・「研究」については、大学の基本的な事項になるので、中期目標の中で別に記載していく方向が良いのではないかと。
- ・大学生は一般教養等の履修をしていくことになると思うが、最近の若者の「健康」や「心の弱さ」といったことが社会全体の問題になっている中で、学生たちの「健康」を支えるような学習分野があると良いと思う。
- ・大学生活の中で、学習以外で、例えば、サークル活動や部活動といったことが心身を鍛えるうえで大変重要である。
- ・新公立大学の組織に関して、「地域連携協力センター」の下に3つのセンター（産学連携センター、生涯学習センター、高大連携センター）がある。下部組織のようなものになると思うが、地域連携協力センターと3つのセンターが並列のように見えてしまう。
- ・全体的に中期目標として理解しやすい表現に変わっていることを評価したい。
- ・中期目標の中の「諏訪地域及び長野県への地域貢献に関する目標」について、「諏訪地域」という言葉を入れることによって、大学がどうしても小さく見えてしまう。「公立諏訪東京理科大学」というしっかりとした名称があるので、そこでさらに「諏訪地域」と小さく限定して良いものかと感じる。
- ・中期目標に沿って中期計画が作られるので、中期計画を様々な方々に理解しやすいものにするべきだと思う。
- ・中期目標の見せ方について、分かりやすいまとめ方をしていただけると有難い。
- ・中期目標については大学の基本的な項目を打ち出していき、それに肉付けをしていくと、我々としても周りに説明しやすいと思う。しっかりと固めてきていただいた中期目標であるが、そういった角度からまとめをしていただけると有難い。